



Eiko's kitchen

えいこうずきっちゃん

SEP2019

NO.4

「えいこうずきっちゃん」は気まぐれでお届けする
キッチントーク。栄港建設の日々のできごとを
お知らせしていきますワン！

Edited by 広報担当 黒ラブ こうのすけ

*キッチントークとは、食事を作りながらの会話や一緒に食事をするにより、お互いが自然にキッチンからセラピーを受けて心の健康をつくり出す会話です。

僕にはお父さんが二人いるんだよ。栄港建設の社長と、もう一人はデザイナーのゆうぞーさん。今回はゆうぞーさんのお話だよ。ゆうぞーさんを中心に僕のお母さんや栄港のみんなも一緒にお米を作っているんだよ。みんなは田植えや稲刈りで人手が欲しいときに手伝いに行っているよ。でもゆうぞーさんは他の日もずっと田んぼを見守っているんだ。5日に田んぼに行った時のことをまとめてくれたので読んでみてね。収穫したお米は会社のランチの日に食べるんだ～僕は会長がくれる白いご飯が大好きなんだけど、お母さんに見つかると怒られちゃうんだよ。僕のけんこーのためなんだってさ。



昨日5日（木）田廻りしてきました。
田廻りというより、新しい顔ぶれの種類確定のための調査を兼ねてです。

簡単に報告しておきます。

- ・稲穂病は見当たりませんでした
- ・水位は良好で、顕著な漏水はありませんでした
- ・田ノ草は、コナギが藻の切れ間で勢力を伸ばしてきていました
→目立ったもの除去
- ・新しい顔ぶれとしてPDFで紹介しているカヤツリグサ系の草が
数は多くありませんが生長しています
→目立ったもの除去
- ・稲になりすましたヒエを抜きました
- ・コメツキムシを数匹見かけました

今週末は、カヤツリグサ系の除草をしたら良いのかと思っています。

20190906 岡野祐三

2019年

望地のやってみ田んぼの新しい顔ぶれ

20190903

今年の望地の田んぼでは、田の草と虫の顔ぶれに変化がありました。
 毎年苦労していた「コナギ」と「ヒエ」はすっかり勢力を弱め、相模川の水をそのまま田に引いているので仕方ないことですが、今まで見かけなかった新顔が現れています。
 その種類がようやく判ってきたので、中間報告として紹介しておきます。

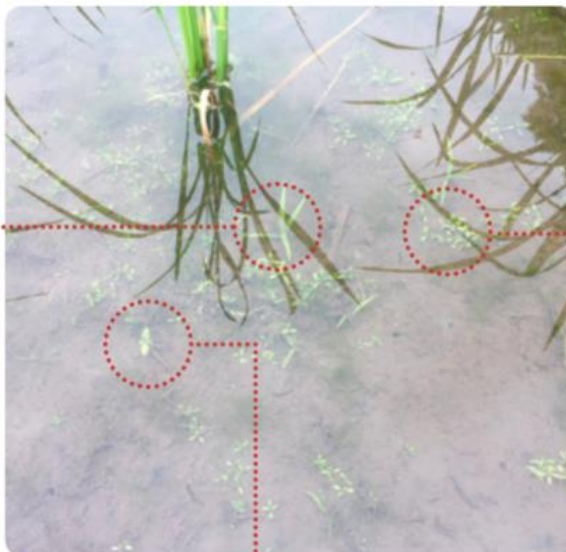


20190602

田植えから1ヶ月の田の様子▶

20190703

おなじみの「コナギ」は2年ほど前と比べて勢いがない。この後2回ほどの除草ですっきり見かけなくなった。
 7月、8月はほとんど放置状態。コナギについては、徐々にコントロールの仕方が判ってきた…と思っていたら、9月に入って葉類が減った稲株の死角で復活しつつあるのを発見。



新しい顔…①

「ミソハコベ」
 …と思われる

- ・冷たい水温で育成
 (確かに望地でも夏になるにつれ目立たなくなった)
- ・水田内で問題になることはない…とのこと
- ・「アゼナ」の

新しい顔…②

「アゼナ」

- ・水田の代表的な在来の草
- ・60~180本/m²であれば許容範囲
- ・食用にも



20190703



20190825



20190825

新しい顔④

「ヒメミソハギ」

(外来のホソバナヒメミソハギの可能性もあり)

- ・暖地の水田で増えてきた雑草
- ・1年草の水田雑草として知られ、高さ10~30cmになる
- ・密生しない限り問題なし



20190825



新しい顔④

「イヌホタルイ」

- ・茎の途中に花穂を付ける
- ・水稲栽培に適応し、現在ではヒエを凌駕する雑草
- ・60~180本/m2であれば許容範囲
- ・茎断面は三角形
- ・カヤツリグサ科、塊根で増える多年草



20190825

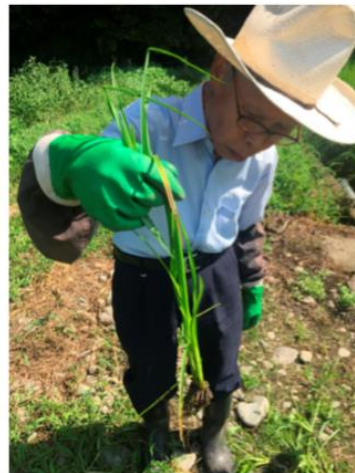


新しい顔④

「タマガヤツリ」

はじめはヒエかと思い、今年最も警戒していた雑草。調べはじめて「コウキヤガラ」または「シズイ」ではないかと思っていたが、9月5日(木)の田廻りで花穂を見て一転、「タマガヤツリ」と確信。

- ・稲株の周囲に多く出現
- ・葉齢2~2.5葉期の根は赤みを帯びている
- ・茎断面は三角形、葉はV形
葉の断面が平形なら「コウキヤガラ」
三角形なら「シズイ」
- ・発生密度が低い水田では、手取り除草が最も確実で効果が高い。侵水田雑草であるが、さほどはびこるものではない
- ・カヤツリグサ科で一年草



20190825



▲カヤツリグサ科は幼齢期の様子がよく似ており、見分けるのが難しい。
なお写真上はコウキヤガラ、写真下はシズイ(農業メーカーのHPより)



20190905



わずかに発見される「ヒエ」はすっかり「稲」になりすましている。



20190728



20190804



20190905

昆虫としては、昨年まで駆除の対象だった「イチモンジセセリ (ツトムシ)」はすっかり見かけなくなりました。代わって葉を縦に縫い合わせて潜んでいる「コブノメイガ」という蛾の幼虫が、今年8月はじめにみられましたが次の週には姿が見られなくなりました。また、8月末から今も見かけるのが「コメツキムシ」です。

新しい顔…⑥

「コブノメイガ」

- ・蜘蛛が天敵
- ・羽化した田では産卵しない
- ・被害率18%以内なら収量・品質に影響ないとのこと。



www.nougyo.com

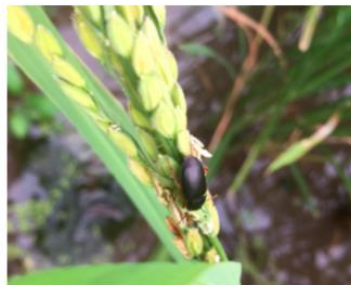
© INTERACT

新しい顔…⑦

「コメツキムシ (ハリガネムシ)」

- ・裏返すとパチンと音を立ててはねることで知られている
- ・幼虫のいくつかの種は大根やジャガイモなどの害虫
- ・だが、かなり調べても「米の害虫」として扱った記述、写真を見ることが出来ない

望地の田んぼの状況はどう考えた方が良いのか。



20190905

穂揃い期の望地の田んぼ▶



20190825